

新潟ガラスリサイクルセンター 株式会社

DX宣言書

2024年11月29日
新潟ガラスリサイクルセンター 株式会社
代表取締役 大野 晃

□ 経営理念

「豊かな、循環型社会の実現へ」
私たちはリユース・リサイクル事業を通して、使い捨ての生活様式から再資源化への転換を推進し、笑顔の絶えない社会を創造します

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ デジタル技術を活用し、業務標準化等に全社員が一丸となって取り組み、時代の変化に対応できる基盤を構築します
- ◆ 業務効率化を通して得られた時間を全社員に還元することで、働きやすい環境を整えます

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2025年5月)

戦略 「社内の連携強化やITインフラの整備等、社内環境を整備」

- 施策
- ・ 各業務を可視化し、プロセス別の作業量や課題を特定
 - ・ 社内コミュニケーションをより充実させるため、定期的な会議の実施やコミュニケーションツールの導入等を検討
 - ・ 勤怠の自動集計や給与計算システムとの連携を実現するため、最適な勤怠管理システム導入を検討
 - ・ 特定した課題をデジタル化によって解決できるよう、外部専門家の意見も参考にしながら、DX実行計画を策定
 - ・ 業務に最適なハードウェア・ソフトウェアを段階的に導入することで、社内のIT環境を整備

➤ フェーズ2(2025年6月 ～ 2026年12月)

戦略 「DX推進に向けて全社員が一丸となって協力し、成果を最大化する組織を構築」

- 施策
- ・ フェーズ1にて策定したDX実行計画を実施
 - ・ 各業務の属人化を防ぐため、可視化した業務プロセスを基に標準化が可能な部分を特定し、マニュアル作成等を検討
 - ・ 全社員が一丸となってDX推進に取り組めるよう、成功した事例を社内でも共有
 - ・ DXへの取組内容を整理し、会社ホームページを活用して当社の魅力を積極的に発信
 - ・ SNS等を活用した新しい採用活動案を検討

➤ フェーズ3(2027年1月 ～ 2027年12月)

戦略 「社員満足度の向上と更なる業務効率化を推進」

- 施策
- ・ DX推進により創出した余剰時間を活用して、福利厚生制度の拡充等を検討することで、社員にとって働きやすい環境づくりを構築(例:有給取得奨励日や時短勤務の導入)
 - ・ 全社員の負担を軽減するため、繰り返し行われる定型業務を自動化するシステム選定を検討

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役をDX推進における実務執行統括責任者とします
- ・ 全社員全員がDX推進に参加し、社内一丸となった取り組みを実行します

□ DX推進目標

- ・ 定例会の実施 : 月3回以上(2025年5月～)
- ・ 会社ホームページ上の情報発信 : 年6回以上(2025年12月～)